

方をはじめ本学会の関係者皆様に心から感謝申し上げます。

学会賞をいただいたきっかけを振り返ってみますと、2020年に京都で開催された第22回学術総会での一般演題に遡ります。内容は、全国がん登録事業の症例検索業務を対象にしたデータ駆動型の業務改善に関する研究成果を報告しました。実はこの時はまだ本演題を論文化する予定はありませんでした。しかし後日、学会関係者の方からこの演題の論文化を薦められたことと、論文投稿の際に査読者の先生方から貴重なご助言を数多くいただいたことで、論文化にいたりました。これが今回の受賞論文です。

マネジメントの本質は、ほったらかしにしない。学会発表だけで終わらせるのではなく、しっかり論文にまとめる。このようなマネジメントの基本的な考え方が、研究においても大事だと改めて感じました。今回の受賞を励みとし、今後も多くの研究成果を共有できるよう精進してまいります。このたびは、本当にありがとうございました。本学会の益々のご発展を心より祈念申し上げます。

■ 支部学術集会開催報告 ■

第24回熊本支部学術集会

学術集會会長：熊本赤十字病院院長 平田稔彦

2022年3月12日(土)に、日本医療マネジメント学会第24回熊本支部学術集會をWeb配信にて開催しました。今回のテーマは「With/postコロナ時代を見据えたDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進」とし、会長講演、共催セミナー、特別講演、シンポジウムをライブ配信いたしました。特別講演では、デジタルハリウッド大学大学院特任教授の加藤浩晃先生から、「2040年に向けた病院医療経営の将来像<医療のデジタル化を中心とした流れと方向性>」の演題にてご講演いただきました。

また、一般演題は41題の演題登録があり、その中から「新型コロナウイルス感染症対策」および「DXに関する取り組み」に関わる演題12題のライブ配信を行いました。参加登録者は県外からの参加者を含め138名となり、活発な質疑応答が行われるなど盛会にて終了いたしました。

Web配信としたことにより、オンデマンド配信の活用など、発表内容のみならず学術集會の運営に関して新たな知見を得ることができました。コロナ禍での本学術集會開催にあたり、ご尽力、ご協力を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

第27回静岡県支部学術集會

学術集會会長：藤枝市立総合病院循環器内科長 阿部 信

新型コロナ
ウイルス
感染拡大
により2度
の延期を
経て、202
2年8月6
日(土)藤
枝市立
総合病院



会場風景

にて、第27回静岡県支部学術集會を開催し82名の参加を頂きました。

今回は、「地域包括ケアシステムにおけるそれぞれの役割～人生最終段階の医療・ケアの在り方～」をテーマに、特別講演では菊川市家庭医療センター長の松田真和様に「みんなが自分らしくいきるために、いま私にできること」と題して、終末期医療として患者の意思に沿った医療を受けられるアドバンス・ケア・プランニングについてご講演頂きました。

一般口演では、クリティカルパス・多職種連携・意思決定支援・退院支援・業務改善・在宅医療など幅広いテーマで各病院や地域で行われている様々な試みについて、計15題の発表がありました。

今回は新型コロナウイルスによる影響でシンポジウム、ランチョンセミナーは中止させていただきました。最後に、本学術集會開催にあたりご協力いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。

第19回京滋支部学術集會

学術集會会長：京都大原記念病院院長 垣田清人

日本医療マネジメント学会第19回京滋支部学術集會は、新型コロナウイルス感染症の第7波の渦中であり、完全Web形式で開催しました。開催にあたっては、市立福知山市民病院・京都医療センター・京都桂病院・済生会滋賀県病院の4施設から学術集會企画委員を組織して開催準備を行い、2022年8月27日(土)に市立福知山市民病院を配信会場として開催することができました。全体で125名の学術集會参加者にご視聴いただきました。

学術集會テーマは「働きやすい病院づくり～いま我々にできること～」としました。東京医療保健大学・副学長の坂本すが先生による特別講演と、パネルディスカッション5演題、一般演題10セッション48演題の構成としました。Web開催ではありましたが白熱した議